

農村基盤総合整備事業

集落排水処理施設

日吉津地区

地質調査報告書

昭和57年度

鳥取県日吉津村

(株)小林エンジニアリングサービス

目 次

第1章	調査概要	-----	1
1-1	調査仕様	-----	1
1-2	調査目的	-----	1
1-3	調査及び試験方法	-----	4
1-4	調査内容	-----	6
第2章	調査結果	-----	7
2-1	ボーリング調査結果	-----	7
	調査記録写真	-----	23

第 1 章 調 査 概 要

1-1 調 査 仕 様

- (1) 発 注 者 : 日 吉 津 村
- (2) 調 査 名 : 農 村 基 盤 総 合 整 備 事 業 日 吉 津
地 区 集 落 排 水 施 設 地 質 調 査
- (3) 調 査 場 所 : 鳥 取 県 日 吉 津 村 , 今 吉 , 日 吉 津
- (4) 調 査 期 間 : 自 昭 和 5 7 年 1 0 月 1 5 日
至 昭 和 5 7 年 1 1 月 4 日
- (5) 調 査 監 督 : 日 吉 津 村 建 設 課
監 督 職 員 : 長 谷 岡 重 信 主 任
- (6) 施 工 : 請 負 人 : (株)小 林 エ ン ジ ニ ア リ ン グ サ ー ビ ス
現 場 代 理 人 : 峰 恭
主 任 技 術 者 : 石 森 均

1-2 調 査 目 的

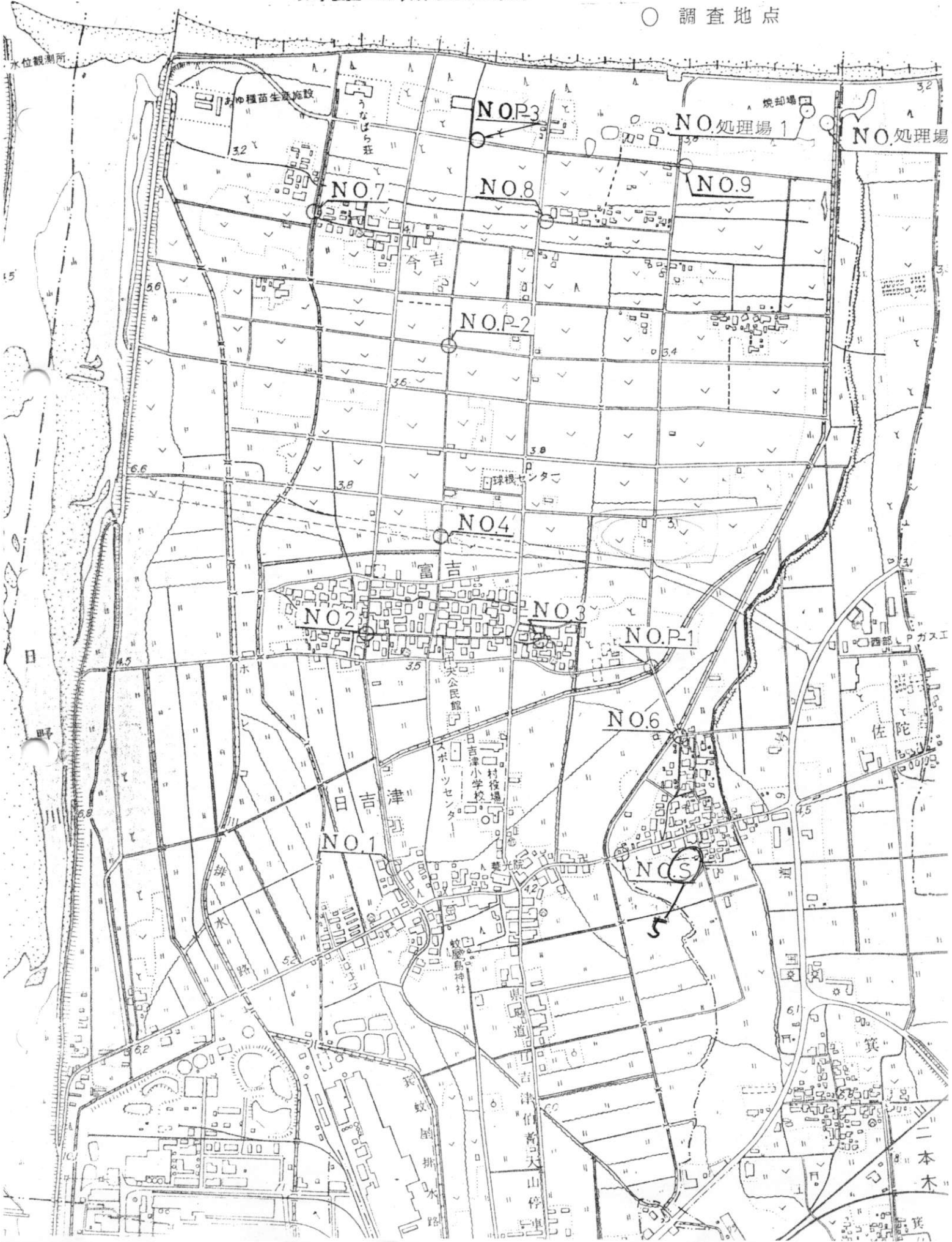
本調査は農村基盤総合整備事業日吉津地区集落排水施設工事に先立ち、幹線管路、ポンプ場、処理場予定地内においてボーリング調査（φ66mm）及びこれに並行して標準貫入試験を行ない、地層構成及び地盤強度などを知ることによって下水道施設設計に関する諸資料を得ることを目的としたものである。

現場案内図 S=1:25000



調査地点位置図 -S=1:10000

○ 調査地点



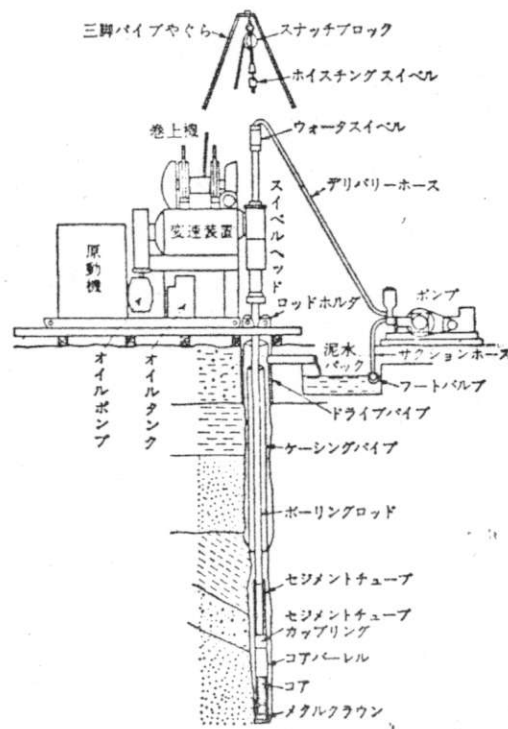
1-3 調査及び試験方法

1-3.1 試錐

試錐は、各地点ともにロータリー式ボーリングマシンにて行ない地層の変化、分布状態およびその土性を精査し、同時に地下水状態を把握するとともに、ボーリングに併行して、1.0mを目標にJIS-A-1219に基づく標準貫入試験を実施し、地層の密度、チョウ度を測定した。

また、ボーリング孔の崩壊逸水防止には、ケーシングの挿入ベントナイトライニングによる孔壁保護を行ない、掘進の円滑を図った。

ボーリング装置の全体図



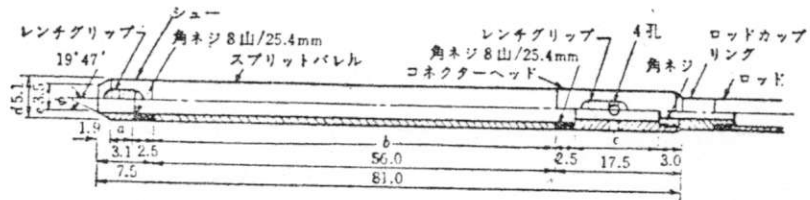
1-3.2 標準貫入試験

標準貫入試験は、原則として1.0mピッチを目標にJIS-A-1219に従い実施した。

試験方法は、レイモンドサンプラーをボーリングロッド先端に接続し、静かに孔底に下し、ロッド上端にノッキングヘッドおよびガイドパイプを取付け、標準ハンマー（重量63.5kg）で乱打しながら15cmの予備打ちを行なった後、ハンマー落下高（75cm）を一定に保ち、自由落下させ30cm貫入に要した打撃数N値を測定した。

また、サンプラーによって採取された試料から土質構成、色調、含有物等を観察記録した後、土質標本試料として共した。

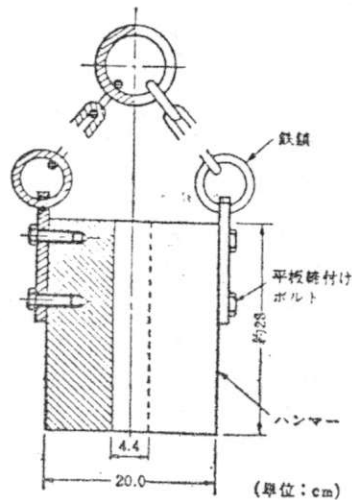
標準貫入試験用サンプラー



各部	全長	a シュー長さ	b バレル長さ	c ヘッド長さ	d 外径	e 内径	φ シュー角度
規格	81.0	7.5	56.0	17.5	5.1	3.5	19'47'

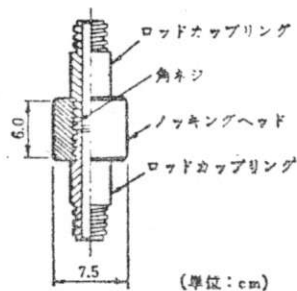
(単位: cm)

ハンマー



(単位: cm)

ノッキングヘッド



(単位: cm)

1-4 調査内容

今回行なった調査の内容は、ボーリング調査(13)ヶ所延 98 m、標準貫入試験 93 点であった。尚、詳細については表 1-4・1 を参照のこと。

表 1-4・1 掘進深さ及び試料採取数量

試 錐 番 号	地 盤 高 標 高 (m)	掘 進 深 さ (m)	層 別 試 錐 長				原 位 置 試 験		
			粘 性 土 (m)	砂 質 土		玉 石 混 り 砂 レ キ (m)	標 準 貫 入 試 験		
				砂 (m)	レ キ (m)		粘 性 土 (点)	砂 質 土 (点)	砂 レ キ (点)
X5	3.46	5	-	0.6	4.4	-	-	-	5
P-1	2.89	5	-	5.0	-	-	-	5	-
P-2	3.81	5	-	5.0	-	-	-	5	-
P-3	3.56	5	-	3.5	0.2	-	-	5	-
No. 1	5.10	5	-	4.3	-	0.7	-	5	-
No. 2	4.15	5	-	4.0	1.0	-	-	5	-
No. 3	4.15	5	-	5.0	-	-	-	5	-
No. 4	2.99	5	-	5.0	-	-	-	5	-
No. 6	2.89	5	-	5.0	-	-	-	5	-
No. 7	4.09	5	-	5.0	-	-	-	5	-
No. 8	4.30	5	-	5.0	-	-	-	5	-
No. 9	3.66	5 ₆₀	-	5.0	-	-	-	5	-
処理場1	3.31	18 ₇₉	1.70	10.70	1.80	3.80	1	11	6
処理場2	3.75	20 ₇₈	2.60	12.40	-	5.0	2	12	6
計	-	98	4.3	75.5	7.4	9.5	3	78	17

No 5

8+

第 2 章 調 査 結 果

2-1 ボーリング調査結果

今回行なった調査結果は付図- 2・1~2・14の「土質柱状図」に表わした通りである。

2-1・1 調査地周辺の地盤概要(日吉津低地)

日野川は山陰第2の大河であり流域に花崗岩山地が広く、かつ下流部右岸に大山火山を控えるのでその運搬砂レキ量は大きく、下流に山陰最大の扇状地を形成する。

日吉津低地は日野川扇状地の前縁低地での外側に発達した2条の砂州からなり、海拔は6m以下である。

以上のように調査地周辺は花崗石の砂レキ及びレキ、大山系の安山岩質の砂及びレキ、玉石などで主に構成され粘性土では主として構成されない。

2-1・2 土 質

今回行なった調査で幹線管路及び、ポンプ場予定地と処理場予定地とでは目的が異なるので別々に述べる。

幹線管路及びポンプ場予定地で合わせて~~11~~¹²ヶ所 延~~55~~⁶⁰mに及ぶボーリング調査を行なったわけであるが、調査結果を土質別に見てみるとその9割が砂質土で1割が砂レキといった明確な結果が得られた。この1割の砂レキも~~5~~⁵及びNo.2で確認されただけであるから全体的に砂質土によって構成されているとあってよい。しかし、全体的に細粒分がまったくな

いわけではなく柱状図の中にも示したように、シルト分が薄層として介在している。このシルト層は部分的にしか出現しなかったが、砂層に介在されるかレンズ状に広く存在しているものと思われる。又、シルト分は砂質土に含有するといった形で存在しており、P-1の上部ではかなり目立って混入していたがその他では多少混入する程度であった。

⑤及びNo.1の砂レキ層はコブシ大の玉石をまれに転在し、砂分が多く小レキをまわりに混入する比較的密なレキ層である。

その他は主に砂で構成され若干のシルト分を混入しているが、全体に粗粒分が目立ちP-1の下部及びNo.7では粗砂によって構成されていた。これは全体に小レキを少量混入する。

次にN値による密度を見てみると、⑤は砂レキ層を主体としているのでN値も高く密であるが、その他はN値20以下が多く中位な砂層といえる。しかし、おもしろい傾向としてP-1及びNo.1以外を見ると3mないし4m地点でかならず30前後のN値が測定されており、この付近は比較的密だといえる。

以上のように若干の細粒分が混入、あるいは介在されているものの全体的に砂質土で構成されているとあってよいが粘土、あるいはシルトが王子製紙北東部及び佐陀川以東に分布しているといわれている。今回の調査ではこの粘土及びシルト層は確認しなかったが、下水道施工時にはかなり広域にわたって掘削する事になるのでこの層が部分的に出現する可能性もあることを明記しておきたい。

又、砂レキ層についても⑤及びNo.2以外の地域でも出現することも予想され、特に⑤付近では佐陀川の影響によって堆積された様子もあり付近一帯に分布している可能性もある。

調査点・調査地点 幹線管路 標高 G.H. 3.46 m 調査年月日 57年10月19日~57年10月19日

ボーリング孔：No. S No. 5 孔内水位 GL-0.96 m 調査担当者 石 森 均

標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	現場観察		記録	標準貫入試験			試験値	試験採取		
				土質記号	土質名		色調	打撃回数	貫入層 cm		10cmごとの打撃回数	試験番号	深さ m
1	3.36	0.10	0.10	砕	アスファルト		22	7	7	8	7		
2	3.21	0.25	0.15	砕	石		50	9	11	30	6		
3	1.61	1.85	1.60	砂	シルト混り	灰	26	16	17	21			
4	1.46	2.00	0.15	砂	シルト質砂	灰	54	7	7	7			
5	0.86	2.60	0.60	砂	シルト混り砂	黄灰	21	7	7	7			
6	0.66	2.80	0.20	砂	シルト混り砂	黄灰~赤灰	50	8	42	5			
7	1.81	5.27	2.47	砂	シルト混り砂	黄灰	5	8	5				

上部はシルト分が目立つ。小シキが多くまれにコブシ大の玉石を転在する。全体に砂分が多い。
 シルト分が目立ちシキ粗粒分を混入する。砂分が比較的粗粒で小シキが多い。
 シルト分が目立つ。砂分が主体であるが小シキがわりに多くコブシ大の玉石を転在する。

備考： 試験採取方法の記号

- デニソン型サンプリャー
- ⊕ フォイルサンプリャー
- シンウォールサンプリャー
- × 貫入試験用サンプリャー
- その他

調査名・調査地点 ポンプ場 標高 G H 2.89 m 調査年月日 57年10月19日 ~ 57年10月19日

ボーリング孔：No P-1 孔内水位 GL-1.30 m 調査担当者 石 森 均

標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	現場		観察色調	記録	深さ m	貫入量 cm	標準			貫入試験値	試料採取
				土質記号	土質名					打撃回数	10cmごとの打撃回数	10 cm		
1	2.69	0.20	0.20	アスファルト										
	2.59	0.30	0.10	砕石										
2	0.89	2.00	1.70	シルト質砂	暗	灰	若干の粗砂分を混入しルーズである。	1.15	4	1	2	1		
3				細砂	暗	灰	全体的に均一でルーズな～中位な砂層である。	2.45	14	4	5	5		
4	-0.71	3.60	1.60	粗砂	茶	灰	粗粒分がかなり目立ちシルトの薄層を介在する。中位な砂層。	3.45	5	1	2	2		
5	-2.69	5.58	1.98					4.15	19	6	7	6		
6								4.45						
7								5.15	15	5	5	5		
8								5.45						
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
16														
17														
18														
19														
20														
21														
22														
23														
24														
25														
26														
27														
28														
29														
30														

備考：

試料採取方法の記号

- ◎ デニソン型サンプラー
- ⊕ フォールサンプラー
- ⊖ シンワールサンプラー
- 貫入試験用サンプラー
- × その他

調査者・調査地点 ポンプ場 標高 G.H.3.81 m 調査年月日 57年10月22日 ~ 57年10月22日
 ボーリング孔：No. P-2 孔内水位 GL-1.50 m 調査担当者 石森均

標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	現場観察		記録	標準貫入試験				試験値	試験採取			
				土質記号	土質名		色調	記事	深さ m	打撃回数 貫入量 cm		10cmごとの 打撃回数 10 cm 20 cm 30 cm	試験番号	深さ m	採取方法
1	3.76	0.05	0.05	砕	石			6	2	2	2				
2	3.61	0.20	0.15	真	砂	灰	砂分が主体であり が小しきをわりに 混入する。上部は ルーアであるが下 部は中位な砂層で ある。	7	2	2	3				
3								2.45	32	8	11	13			
4								3.45	15	5	5	5			
5								4.45							
5	-1.67	5.48	5.28					5.45	21	7	7	7			
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
16															
17															
18															
19															
20															
21															
22															
23															
24															
25															
26															
27															
28															
29															
30															

備考：

- 試験採取方法の記号
- デニソン型サンプラー
 - ⊕ フォイルサンプラー
 - シンウォールサンプラー
 - × 貫入試験用サンプラー
 - その他

調査点・調査地点 幹線管路 標高 GH 5.10 m 調査年月日 57年10月15日~57年10月15日

ボーリング孔：No. 1 孔内水位 G.L. - 1.18 m 調査担当者 石森均

標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	現場観察記録		標準貫入試験			試験採取								
				土質記号	土質名	色調	記事	深さ m	打撃回数	貫入量 cm	10cmごとの打撃回数	N	値	試験番号	採取方法		
1	5.05	0.05	0.05	アスファルト													
2	4.80	0.30	0.25	砂													
3	4.10	1.00	0.70	玉石混り砂礫													
4																	
5																	
6	-0.47	5.57	4.57		砂	灰	盛土部分でコブシ以上の玉石を転在する。 若干のシルトを混入し、木片を多量に含む。粗砂分及び粗砂を少量混入する。シルトの薄層を介在する。	1.15 1.45 2.15 2.45 3.15 3.45 4.45 5.15 5.45	8 5 4 7 9	4 2 1 3 3	3 2 2 2 3	1 1 1 2 3					

備考：

試験採取方法の記号

- デニソン型サンプラー
- ⊕ フォイルサンプラー
- シンウォールサンプラー
- × 貫入試験用サンプラー
- その他

調査地点 幹線管段 標高 G.H.4.15 m 調査年月日 57年10月21日~57年10月21日
 ボーリング孔：No. 2 孔内水位 G.L.-2.30 m 貫入試験 石 均

標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	現場		観察	記録	標準			貫入試験	試料採取		
				土質記号	土質名			色調	記事	深さ m		打撃回数	貫入量 cm	10cmごとの打撃回数
1	4.10	0.05	0.05	アスファルト	砂	灰	砂分を主体とする がコブシ大の転石 がある。	9	3	3	3			
2	4.00	0.15	0.10	砂	砂	灰	若干の粗粒が目立 つがルーズである。	7	3	2	2			
3	3.50	0.65	0.50	砂	砂	茶	小レキ分が目立 コブシ大の玉石を 転庄する。	21	5	7	9			
4	1.65	2.50	1.85	砂	砂	茶	若干の粗粒分があ り中位な砂層。	30	9	11	10			
5	1.15	3.00	0.50	砂	砂	灰		21	7	7	7			
6	1.30	5.45	2.45											
7														
8														
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
16														
17														
18														
19														
20														
21														
22														
23														
24														
25														
26														
27														
28														
29														
30														

備考：

試料採取方法の記号

- デニソン型サンプラー
- ⊕ フォイルサンプラー
- シンウォールサンプラー
- × 貫入試験用サンプラー
- その他

調査名・調査地点 幹線管路 標高 GH 4.15 m 調査年月日 57年10月20日~57年10月20日

ボーリング孔：No. 3 孔内水位 GL - 1.00 m 調査担当者 石 森 均

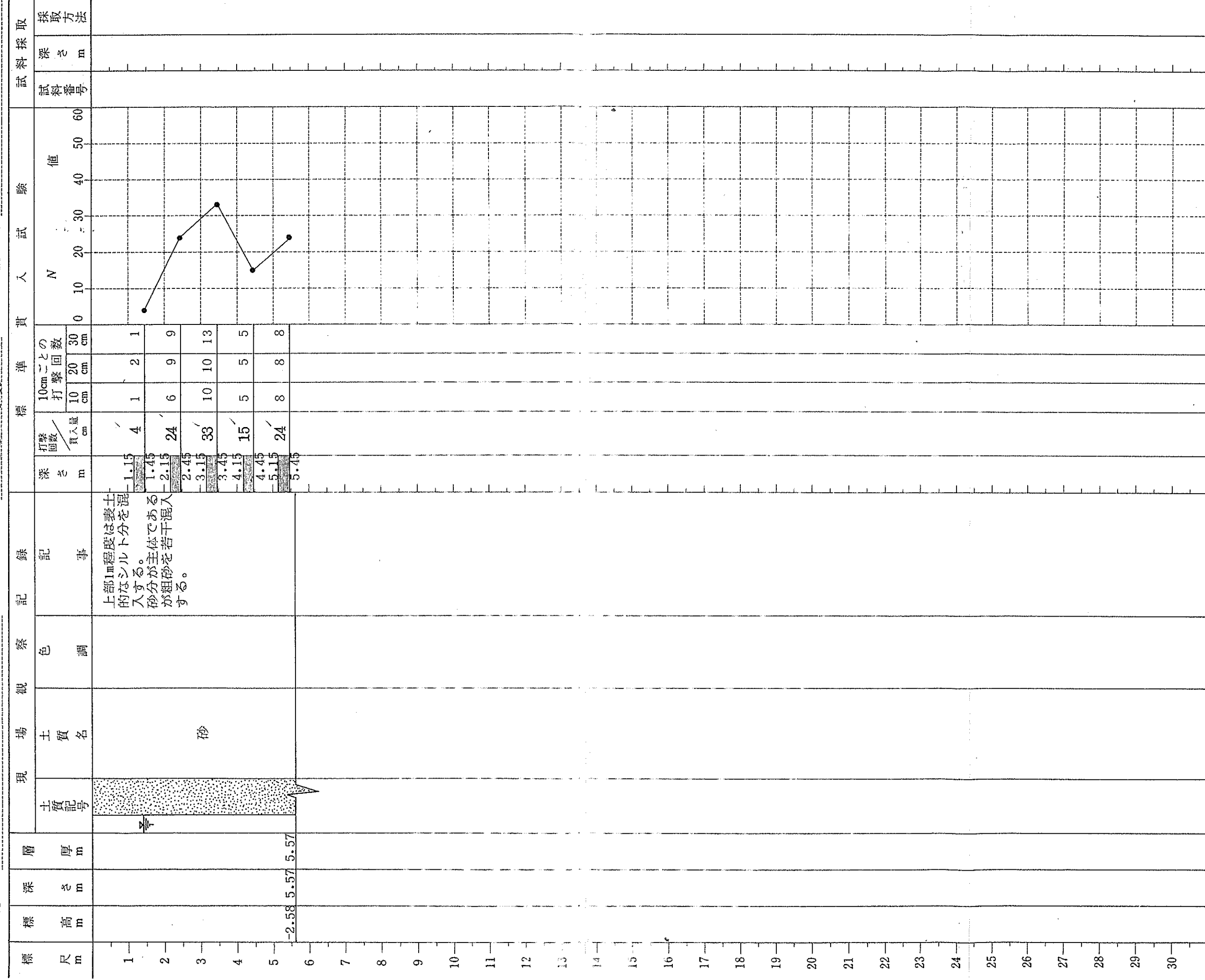
標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	現場観察記録		標準貫入試験			試験値		試料採取						
				土質記号	土質名	色調	記事	深さ m	打撃回数 / 貫入量 cm	10cmごとの打撃回数 (10cm, 20cm, 30cm)	N	値	試料番号	深さ m	採取方法		
1	4.10	0.05	0.05	砕	アスファルト												
2	3.95	0.20	0.15	砕	石												
3				茶	砂	茶	灰	6	1	3	2						
4								11	3	4	4						
5								34	15	10	9						
6								16	5	5	6						
								21	5	9	7						
	-1.38	5.53	5.33														

備考：

試料採取方法の記号

- デニソン型サンプラー
- ⊕ フォイルサンプラー
- シンウォールサンプラー
- × 貫入試験用サンプラー
- その他

調査台・調査地点 榎 線 管 路 標 高 GH 2.99 m 調査年月日 57年10月22日 ~ 57年10月22日
 ボーリング孔：No. 4 孔内水位 GL - 1.40 m 調査担当者 石 泰 均



備考:

- 試料採取方法の記号
- シンウォールサンプラー
 - 貫入試験用サンプラー
 - ◎ デニソン型サンプラー
 - ⊕ フォイルサンプラー
 - × その他

調査岩・調査地点 幹線管路 標高 G H 2.84 m 調査年月日 57年10月16日~57年10月16日

ボーリング孔：No. 6 孔内水位 G L - 1.05 m 調査担当者 石 森 均

標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	現場観察記録		標準貫入試験			採取方法									
				土質記号	土質名	色調	記事	深さ m		打撃回数 / 貫入量 cm	10cmごとの打撃回数 (10cm, 20cm, 30cm)	N	値	試料番号	深さ m			
1	2.79 2.54	0.05 0.30	0.05 0.25	アスファルト 砕	石													
2	0.34	2.50	2.20	シルト混り砂	茶	灰	若干の粗粒分を混入するが砂分が多くシルト分を混入する。	1.15 1.45 2.15	7 6	2 2 3 3 2 1								
3				砂	茶	灰	小しきを転在しており部分的に集中している。砂分を主体とする。	2.45 3.15 3.45 4.15	18 28	5 6 7 8 10 10								
5	-2.68	5.52	3.02					4.45 5.15	15	6 5 4								

備考：

試料採取方法の記号

- シンワールサンブラー
- 貫入試験用サンブラー
- ◎ デニソン型サンブラー
- ⊕ フォイルサンブラー
- × その他

調査台・調査地点 幹線管路 7 標高 4.09 m 調査年月日 57年10月26日~57年10月26日
 ボーリング孔：No. 7 孔内水位 G.L.2.00 m 調査担当者 石 森 均

標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	現場観察記録		標準貫入試験			試料採取									
				土質記号	土質名	色調	記事	深さ m	打撃回数	貫入量 cm	10cmごとの打撃回数	N	値	試料番号	採取方法			
1	4.04	0.05	0.05	Asphalt	砕													
2	3.94	0.15	0.10	Asphalt	石													
3							0.80mまでは表土的なシルト分を混入する。全体的に粗粒であるが部分的に細砂、シルトの薄層を介する											
4																		
5	-1.43	5.52	5.37															
6																		
7																		
8																		
9																		
10																		
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
16																		
17																		
18																		
19																		
20																		
21																		
22																		
23																		
24																		
25																		
26																		
27																		
28																		
29																		
30																		

備考：

試料採取方法の記号

- デニソン型サンプラー
- ⊕ ファイルサンプラー
- シンウォールサンプラー
- × 貫入試験用サンプラー

調査台・調査地点 幹線管路 8 標高 4.30 m 調査年月日 57年10月26日~57年10月26日

ボーリング孔：No. 8 孔内水位 GL-2.40 m 調査担当者 石 森 均

標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	現場観察記録		標準貫入試験			試験値		試料採取						
				土質記号	土質名	色調	記事	深さ m	打撃回数 貫入量 cm	10cmごとの 打撃回数 10 cm 20 cm 30 cm	N	値	試料番号	深さ m	採取方法		
1	4.25	0.05	0.05	アスファルト	石												
2	4.10	0.20	0.15	砂			0.80mまで表土的なシルト分を混入する。全体的にやや粗粒である。	1.15	7	2	3	2					
3								1.45	6	2	2	2					
4								2.45	15	3	5	7					
5	-1.16	5.46	5.26					3.45	31	9	11	11					
								4.15	17	5	6	6					
								4.45									
								5.15									
								5.45									

備考：

試料採取方法の記号

- デニソン型サンプラー
- ⊕ フォイルサンプラー
- シンワールサンプラー
- × 貫入試験用サンプラー
- その他

調査者・調査地点

幹線管路

標高

G.H.3.66 m

調査年月日 57年10月27日~57年10月27日

ボーリング孔：No.

9

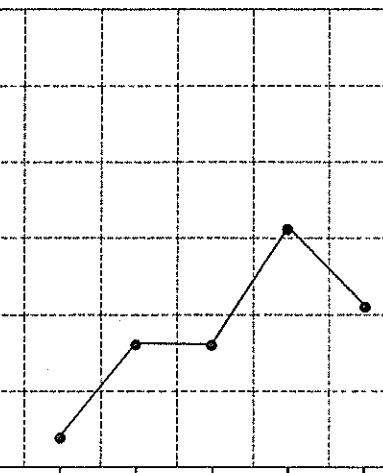
孔内水位

G.L.-2.90 m

調査担当者 石 森 均

標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	現場観察記録		標準貫入試験	試験値	試料採取	
				土質記号	土質名			土質記	色調
1	3.59	0.07	0.07	砕	アスファルト	10cm 1	1		
2	3.49	0.17	0.10		石	10cm 1	2		
3						10cm 6	5		
4					砂	10cm 5	5		
5	-1.83	5.49	5.32			10cm 9	10		
6						10cm 7	7		
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									

全体的にやや粗粒でシルトの層層を介在する。



備考：

試料採取方法の記号

- デニソン型サンプラー
- ⊕ フォイエルサンプラー
- シンワールサンプラー
- × 貫入試験用サンプラー
- その他

調査者・調査地点 終未処理場 標高 G H 3.31 m 調査年月日 57年10月30日~57年11月4日
 ボーリング孔: No. 1 孔内水位 G L - 2.60 m 調査担当者 石 森 均

標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	土質記号	土質名	現場観察色調	記録	標準貫入試験				試験値	試験採取
								深さ m	打撃回数	貫入量 cm	10cmごとの打撃回数		
1	2.01	1.30	1.30	シルト混り砂レキ	茶 灰	砕石、木片などを混入する。	4V	2	1	1			
2	0.31	3.00	1.70	砂質シルト	黒 灰	シルト分などの細粒分を主体とするがかなりの腐植根類、木片を混入する。	4V	1	2	1			
3	0.69	4.00	1.00	シルト混り砂	黒 灰	砂を主体とするがシルト分を混入し部分的に粘土の薄層を介在する。中位な砂層である。	9V	3	3	3			
4	2.19	5.50	1.50	粗砂	茶 灰	粗粒分が目立つ砂層でまれに小レキを転在する。中位な砂層。	21V	7	7	7			
5	2.69	6.00	0.50	砂	茶 灰	粗粒分が多量に転在する。中位な砂層。	21V	6	7	8			
6						粗粒分が多量に転在する。中位な砂層。	18V	5	6	7			
7						粗粒分が多量に転在する。中位な砂層。	18V	6	6	6			
8						粗粒分が多量に転在する。中位な砂層。	13V	5	4	4			
9						粗粒分が多量に転在する。中位な砂層。	20V	6	6	8			
10						粗粒分が多量に転在する。中位な砂層。	24V	7	7	10			
11						粗粒分が多量に転在する。中位な砂層。	21V	7	6	8			
12						粗粒分が多量に転在する。中位な砂層。	11V	3	3	5			
13						粗粒分が多量に転在する。中位な砂層。	20V	5	7	8			
14	10.30	14.20	8.20	玉石混り砂レキ	灰	砂分は粗粒でコブシ大の玉石を多く転在し密実である。	50	5	5	バウンド			
15							50	21	29				
16							50	50	9				
17							50	貫入不能					
18	4.84	18.15	3.95				50	貫入不能					

備考:

試験採取方法の記号

- デニソン型サンプラー
- ⊕ ファイルサンプラー
- シンワールサンプラー
- × 貫入試験用サンプラー
- その他

調査地点 終未処理場 標高 GH 3.75 m 調査年月日 57年10月30日~57年11月4日
 ボーリング孔：No. 2 孔内水位 GL-2.40 m 調査担当者 石 森 均

標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	現場		観察色	記録事	標準			貫入試験値 N	試料採取			
				土質記号	土質名			打撃回数	貫入量 cm	10cmごとの打撃回数		試料番号	深さ m	採取方法	
1	3.15	0.60	0.60		砂	茶	灰	2	37	1	15				
2					シルト	黒	1.00m~1.20mにシルト質砂層を介在する。2.30m~2.45mに粘土を介在する。シルト分を主体とするが腐植土がかなり目立ち非常に軟弱である。								
3	0.55	3.20	2.60		砂	茶	灰	15	4	5	6				
4	-0.65	4.40	1.20		粗砂	茶	灰	12	4	4	4				
5	-1.85	5.60	1.20		粗砂	茶	灰	16	6	5	5				
6							若干の粗粒分を混入する。中位な砂層。								
7							粗粒分がかなり目立ち小レキを転在する。								
8					砂	茶	灰	18	6	5	7				
9					砂	茶	灰	21	7	8	6				
10							全体にわりと均一で部分的に粗砂層を介在する。全体に中位な砂層である。								
11	-7.25	11.00	5.40		細砂	暗茶	灰	18	5	6	7				
12	-7.75	11.50	0.50		砂	茶	灰	15	3	5	7				
13	-8.35	12.10	0.60		細砂	暗茶	灰	8	2	3	3				
14							全体に均一でゆるい砂層である。								
15	-10.85	14.60	2.50		砂	茶	灰	22	6	7	9				
16	-11.25	15.00	0.40		玉石混り砂レキ	灰	砂分は粗粒でコブシ大程度の玉石を多く転在し密実な砂レキ層である。	49	18	16	15				
17								9	2	3	4				
18								50	9						
19								50	9						
20	-16.51	20.26	5.26					18.24	50	5	5				
21								19.20	50	6	6				
22								20.20	50	6	6				
23								20.26							
24															
25															
26															
27															
28															
29															
30															

備考：

試料採取方法の記号

- デニソン型サンプラー
- ⊕ シンウォールサンプラー
- ⊗ 貫入試験用サンプラー
- その他

調査地点

幹線管路

標高

m

調査年月日

57年11月4日~57年11月4日

ボーリング孔：No.

P-3

孔内水位

m

調査担当者

石森均

標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	現場		土質記号	土質名	観察色調	記録事	深さ m	打撃回数 / 貫入量 cm	標準			貫入 N	試験値	試験採取
				土質記号	土質名							10cmごとの打撃回数	10 cm	20 cm			
1	0.04	0.04	0.04	アスファルト	石					1.15	7	2	2	3			
2	0.20	0.20	0.16	砂	砂	黄	黄	若干の粗砂分を混入しルースである。	1.45	5	1	2	2	2			
3	0.85	0.65	0.20	粗砂	粗砂	黄	黄	コブシ大以下のレキを転在する砂レキ。	2.45	17	5	5	5	7			
4	3.85	2.80		レキ混り	茶			粗粒分がかなり目立ちレキを混入するわりに中位である。	3.45	15	5	5	5	5			
5	5.50	1.65		粗砂	茶			さらに粗粒分が目立ちレキを混入する。中位な粗砂層である。	4.45	13	5	4	4	4			

備考：

試験採取方法の記号

- デニソン型サンプラー
- ⊕ ファイルサンプラー
- シンウォールサンプラー
- 貫入試験用サンプラー
- × その他